

# 第46回日本救急医学会総会・学術集会プログラム・抄録集

## 訂正と変更および演題取り下げのご案内

日本救急医学会雑誌 第46回日本救急医学会総会号におきまして、訂正と変更のご案内がございます。  
下記ご確認下さいますようお願い申し上げます。

### 抄録訂正

抄録掲載に誤りがございました。訂正をいたします。  
各先生方にご迷惑をお掛けいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

◆11月19日（月） 第4会場 14：20～14：50 教育講演3 （日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.281）

EL3 火山噴火災害時の医療

山梨県立中央病院 救命救急センター 総合診療・感染症センター  
井上 潤一

火山や噴火と聞いて、あ、自分には関係ないと思っているあなた！ 噴火なんて台風や地震より全然少ないとか、近くに火山はないとか、考えるスパンが過去1万年なんてもうマンモスや原始人の世界で現実的に考えられない、等々言われるかもしれません。ですが日本は世界第4位の111もの活火山がある火山大国で、そのうち50は24時間常に監視体制にある、即ちいつ噴火してもおかしくない火山とされているのです。それらが東京はじめ全国の半数以上にあたる26の都道府県にあり、かつ最近の木曾御嶽山や草津白根山の噴火を考えれば、たまたま観光で訪れていた火山が突然噴火し巻き込まれないとも限りません。さらに火山専門家の間では東日本大震災以降、これまで想定されてこなかった頻度は非常に低いものの日本全体に影響を及ぼすような大規模噴火への対応も必要とされているのです。ところが噴火災害に対する医療は、桜島など一部の地域を除きこれまでほとんど検討されておらず、DMATも降灰によりチームの迅速な投入や患者の航空搬送ができない可能性があります。国では御嶽山噴火を機に活動火山対策特別措置法という火山対応の法律を改正し、各火山ごとにその対応策を考える火山防災協議会を置くことを義務付けました。しかし当然想定すべき人的被害や健康問題に対応する医療関係者がその必須構成員に含まれていないため有効な計画にならないことが危惧されます。本講演では、1) 噴火とそれに伴い人的被害を引き起こす現象を正しく理解する2) 過去の噴火から当該火山の噴火シナリオとハザードマップを理解し、避難行動を支援する3) 人的被害と必要なリソースを算定し、噴火活動下での対策を考える4) 降灰による社会インフラの広汎な機能低下が医療にも重大な影響を及ぼすことを理解する以上について救急医の視点から解説し、火山噴火災害を救急医療が積極的に取り組むべき事態とする契機にしたいと考えます。

◆11月20日（火） 第1会場 10：00～12：00  
シンポジウム3 「魅力ある専門医制度を目指して」（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.315）

SY03-4 救急医を目指してみませんか？～あらゆるビジョンに対応したオーダーメイド救急医教育の意義

大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター  
吉永雄一、三浦拓郎、五十嵐佑子、奥比呂志、尾北賢治、佐藤秀峰、大谷尚之、伊藤裕介、大津谷耕一、澤野宏隆、林 靖之

平成16年度に新臨床研修制度が必修化されて以降、初期臨床研修を経て当センターに救急科後期研修医として在籍したのは通算65人、うち40人が救急科専門医を取得している。そのうち、他施設も含め救命センターに現在も在籍しているのは20人と少ないが、他の多くの医師も救急専門医の資格を活かし、様々な分野（他診療科、研究、行政、司法など）に活躍の輪を広げている。これは、病院前からER、手術、集中治療に至るまで全てを一貫して行う自己完結型診療を肌で感じ、民間病院でありながらメディカルコントロールや災害医療における地域の中核的役割を担い、メディカルラリーや国際支援などoff the jobでも様々な経験をえられる環境の中で、後期研修医のあらゆるビジョンや可能性に対応した研修を行ってきたことの成果であると言える。新専門医制度の開始によって診療科の行き来が難しくなり、人生の選択肢が狭まったと感じる研修医も少なくないであろう中、「救急医には色んな道があるよ」と示してあげることで、救急医を目指す若手医師の裾野を広げていくことが出来るのが、当センターのフレキシブルな研修制度の利点であると考えており、今後も様々な分野で活躍するバラエティ豊かな救急医の育成を続けていきたい。

◆11月21日（水） 第3会場 17：0019：30

委員会報告4 「JAAM FORECAST 報告」

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.414）

CR04-4 JAAM FORECAST Sepsis研究 4. 敗血症治療における補助・支持療法の治療疫学

日本救急医学会 多施設共同試験特別委員会

小谷 穰治, 樽井武彦, 久志本成樹, 小倉裕司, 丸藤哲, 阿部智一, 池田弘人, 射場敏明, 上山昌史, 梅村穰, 大友康裕, 岡本好司, 齋藤大蔵, 阪本雄一郎, 佐々木淳一, 椎野泰和, 白石淳, 白石振一郎, 田熊清継, 武山直志, 鶴田良介, 中田孝明, 萩原章嘉, 一二三亨, 藤島清太郎, 増野智彦, 真弓俊彦, 山川一馬, 山下典雄

日本救急医学会で2010-2011年にsepsis registry委員会が敗血症疫学研究を行い、severe sepsisを登録・解析した（sepsis-2JAAM-SR研究）。今回2016-2017年に多施設共同試験委員会が2回目の疫学研究（FORECAST Sepsis）を実施した。本発表で国際的には認められていないが本邦で保険収載・実施されている補助/支持療法を解析し、予後との関連を示す。患者1184名の詳細は別発表に託す。来院時Shock(-)、(+ )における4日以内の各種治療の施行率(%)はCRRT: 13.1, 34.5、IRRT: 4.7, 2.4、PMX: 1.6, 12.8、Protease inhibitor (PI): 6.1, 8.3、Sivelestat: 2.8, 3.9、免疫グロブリン: 11.2, 24.5、ステロイド: 12.9, 40.6、選択的腸管殺菌: 0.7, 1.1、積極的な血糖管理: 28.7, 21.4と、PI, Sivelestat, IVIGはSepsis-2調査より著減した。経腸栄養:は49.0, 44.0 (%)とshock下でも積極的だが、開始時期は<24時間、> = 24かつ<48時間未満、> = 48時間が、Shock(-): 58.6, 25.2, 16.2、Shock(+): 39.3, 28.1, 32.6(%)と、shock下で開始が遅れた。JAAM-DIC(-), (+)それぞれのShock(+ )率は55.5, 69.3 (%)で、DIC治療の施行率(%)は、PI: 6.1, 9.9、Sivelestat: 3.5, 3.2、3.8, 3.4、ATIII: 11.0, 32.1、recombinant thrombomodulin (rTM): 11.2, 34.6と、Sepsis-2と同様の傾向であった。各種治療と予後の関連を解析する。

## 共著者追加

下記演題に共著者の追加がございました。

◆11月21日（水） 第2会場 15：00～17：00

ワークショップ5 「ICLS指導者養成ワークショップ ブラッシュアップセミナー」

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.358）

WS05-6 ICLS指導者ワークショップは受講生の役に立っているのか？

手稲渓仁会病院 救命救急センター

清水隆文、森下由香、奈良 理

## 訂正

日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号に、下記の通り訂正させていただきます。

◆セッション時間訂正

日程表/学会日程表 11月19日（月） 第6会場（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.11 p.101）

ワークショップ3「終末期の延命治療終了後のマネジメントについて」

【誤】17：30 ～ 18：30

【正】17：00 ～ 18：30

◆セッションタイトル訂正

日程表 11月20日（火）（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.12）

第2会場 09：00～10：30 パネルディスカッション8

【誤】「感染対策講習会」

【正】「体温異常の現状と対策」

◆司会 氏名訂正

11月19日（月）第5会場 15：50～17：20（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.98）

パネルディスカッション6「あと3年で規制適用？ 救急医の働き方改革：救急医療は対応できるか？」

【誤】小倉 真司

【正】小倉 真治

◆司会 氏名訂正

11月20日(火)第2会場 10:30~12:00 (日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.141)

合同委員会報告「緊急企画;未体験ゾーンに突入した空前の猛暑・熱波を振り返る 2018」

「熱中症および低体温症に関する委員会・日本集中治療医学会神経集中治療ガイドライン作成委員会 合同委員会報告」

【誤】黒田 泰宏

【正】黒田 泰弘

◆司会 訂正

11月20日(火)第3会場 10:30~12:00 (日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.143)

シンポジウム5「緊急度から救急度へ:古くて新しい概念を改めて整理する」

【誤】順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科 杉田 学

【正】東京医科大学 救急・災害医学分野 織田 順

## 変更

日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号に、下記の通り変更がございました。

◆演者変更

11月19日(月)第2会場 14:20~15:50 パネルディスカッション2 (東京2020特別企画)

「東京オリンピック・パラリンピック2020において救急医が果たす役割」

(日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.91)

PD02-4 外国籍の救急患者対応には多職種による診療体制の構築が重要である

東京医科歯科大学 救命救急センター 森下 幸治 → 二見 茜

◆演者変更

11月19日(月)第4会場 09:30~10:30 私のあんな工夫・こんな工夫 1

(日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.94)

DS1-1 はじめてでも一人で治せる肩脱臼整復

洛和会音羽病院 救命救急センター・京都 ER 宮前 伸啓 → 植木あゆみ

◆演者変更

11月20日(火)ポスター会場 16:30~17:20 研修医セッション ポスター12「感染症—中枢神経」

(日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.185)

RP12-1 細菌性髄膜炎の急速な進行により死に至った侵襲性 Klebsiella 感染症の1例

大阪市立大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター 森田 諒 → 中村 洋平

◆発表順変更 下記演題が一番目の発表になりました。

11月19日(月)第7会場 10:20~11:50 シンポジウム2 関連セッション「救急医療と End-of-Life Care」

(日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.102)

MRS02-6 living will の適応を困難にする要因の分析—患者家族、施設職員のアンケート調査、及び訴訟事例をもとに

大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 大西 光雄

◆発表順変更 下記の発表順になりました。

11月20日(火)第5会場 17:30~19:00

(日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号 p.149)

イブニングセミナー2「Don't guess. Know.—救急領域における網羅的な迅速検査アプローチ」

ES2 New rapid testing technologies for respiratory pathogens

Kaiser Franz Josef Hospital Vienna Austria Zoufaly Alexander

新しい微生物診断テクノロジーが切り開く救急領域の感染症診療

広島大学大学院 医歯薬保健学研究科 医学講座 救急集中治療医学 志馬 伸朗

共催:ピオメリュー・ジャパン株式会社

※発表順につきましては、座長の判断により上記以外にも追加の変更をする場合がありますので、予めご了承ください。

# 演題取り下げ

演題の取り下げがございました。

◆11月19日（月） 第9会場 口演8 「重症度・予後予測」 14：20～15：30

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.108）

**O08-7 気道熱傷患者における遅発性上気道狭窄のリスク因子の検討**

慶應義塾大学 医学部 救急医学教室 松村 一希

◆11月19日（月） 第10会場 口演12 「骨盤四肢外傷 1」 14：20～15：20

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.110）

**O12-5 四肢外傷手術における術前lactate clearance と術後合併症に関する検討**

慶應義塾大学 医学部 救急医学 西田 有正

**O12-7 ERにおける超音波ガイド下末梢神経ブロックの経験**

医療法人社団埼玉巨樹の会 新久喜総合病院 整形外科 佐伯 辰彦

◆11月19日（月） 第12会場 口演19 「外傷 1」 09：30～10：40

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.113）

**O19-2 外傷読影におけるFACTの有効性の検証**

聖マリアンナ医科大学 救急医学 岡本賢太郎

◆11月19日（月） ポスター会場 ポスター30 「呼吸器 2」 17：20～18：30

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.130）

**P030-7 慢性腎不全患者がび慢性肺疾患を罹患した時の治療戦略に関して**

鹿児島大学病院 救命救急センター 政所祐太郎

◆11月19日（月） ポスター会場 ポスター39 「呼吸管理 1」 16：30～17：30

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.133）

**P039-1 気管挿管後の気管狭窄を起こした4症例の検討**

藤田保健衛生大学病院 救急総合内科 安藤 綾

◆11月19日（月） ポスター会場 ポスター45 「チーム医療」 16：30～17：40

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.136）

**P045-5 ER患者の過去 現在 拓ける未来～直接来院患者ICU/HCU記録より**

仙台市立病院 救命救急センター 芳賀 玉江

◆11月20日（火） 第13会場 口演45 「高齢者 2」 15：30～16：20

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.167）

**O45-4 高齢者大腿骨近位部骨折に対する早期手術の有用性の検討**

慶應義塾大学 医学部 救急医学 宇田川和彦

◆11月20日（火） ポスター会場 ポスター72 「災害医療 5」 17：40～18：30

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.179）

**P072-1 市民メディカルラリーの有用性**

南奈良総合医療センター 守川 義信

◆11月21日（水） ポスター会場 ポスター120 「病院前医療・MC 4」 15：50～16：50

（日本救急医学会雑誌 プログラム抄録号p.239）

**P120-3 お薬手帳持参率を上げる取り組み**

市立函館病院 救命救急センター 坂脇 英志